

☆ Society of Japan Clinical Dentistry ☆

2017年度 東京 SJCD 第2回例会のご案内

初秋の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて来る11月5日に開催されます2017年度東京 SJCD 第2回例会につきましてご連絡申し上げます。今回はインサービストレーニングとして SJCD が世界に誇るインプラントロジストの小濱 忠一先生をお呼びして審美領域のインプラント治療に関してのお話をさせていただく予定になっております。また午後には土屋賢司先生を座長に3名の会員によるケースプレゼンテーションを用意しております。

皆様お誘い合わせの上、ご参加頂けますようお願い申し上げます。

日時 2017年11月5日(日) 受付開始 9:30 / 開演 10:00~17:15

会場 都市センターホテル/コスモスホール 3F

所在地 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1 TEL 03(3265)8211

※入場証について：必ず個人のQRコードをダウンロードしてお持ちくださいませ。

◆インサービストレーニング◆

『審美領域における最適な治療計画と治療戦略』

小濱 忠一 先生 (福島県いわき市 医療法人社団翔悠会 小濱歯科医院)

◆ケースプレゼンテーション◆

「低侵襲治療、Immediate provisionalization の優位性～臨床的工夫を含めて～」

前田 貢 先生 (東京都 港区 愛宕歯科クリニック)

「インプラントを用いて咬合再構成した症例」

坂本 貞樹 先生 (神奈川県 川崎市 さだきデンタルクリニック)

「安定した下顎位獲得に苦慮した咬合再構成の症例」

吉田 茂治 先生 (埼玉県 さいたま市 パークサイドデンタルオフィス)

* 詳細は HP 参照 : <http://www.tokyo-sjcd.com>

〈 オンライン質問ツール 〉

「会に参加していて疑問に思ったが大会場での質問は、はずかしい……」という方のために。

今回もオンライン質問ツールを導入します。

演者に対しての疑問や不明点をオンラインにて集計し、回答を頂けます。

当日、QRコードを配布致しますので、QRコードからアクセスして頂きご質問下さい。

アクセス対象端末は、PC・スマートフォン・タブレット以上の3種になります。

【事前準備のお願い】

Android 端末には予め QR コードリーダーがインストールされておりますが、iphone・ipad をお使いの方は、事前に App Store にて「QR コード」と検索し QR コードリーダーをインストールしておいて下さい。

小濱 忠一 先生（福島県いわき市 医療法人社団翔悠会 小濱歯科医院）

- 略 歴 1981年 日本大学松戸歯学部卒業 日本大学 歯内療法学教室入局
- 1984年 原宿デンタルオフィス勤務
- 1986年 小濱歯科医院開業
- 2006年 日本大学客員教授
- 2011年 医療法人社団翔悠会 小濱歯科医院設立

『 審美領域における最適な治療計画と治療戦略』

インプラント審美修復の成功とは、適切な歯冠形態と色調の再現はもとより、隣接そして同名天然歯とのインプラント周囲組織の調和を図ることである。しかし、インプラント特有のリスクファクターの存在が天然歯修復以上に難易度を高く、複雑にするため、審美的に好ましくない結果を招く場合が多いのも事実である。加えて、術者サイドの不十分な治療計画は、時として大きな外科的・補綴的トラブルについては治療期間の無駄な延長を引き起こしてしまう。要するに、さまざまなリスクファクターに対応するための最適な外科的・補綴的治療概念と治療戦略を選択することが、治療ゴールの達成には不可欠である。

そこで、本講演では、抜歯即時埋入の長期的な検証からの優位性と最適な外科および補綴処置に対するデジタル化の有効性について解説したい。

前田 貢 先生（東京都 港区 愛宕歯科クリニック）

- 略歴 2004年 北海道医療大学 歯学部 卒業
東海大学医学部付属病院 口腔外科 研修医
- 2005年 東京慈恵医科大学病院 歯科口腔外科 医員
富士市立中央病院 麻酔科 医員
- 2008年 東京都 港区 愛宕歯科クリニック院長

■ 所属・認定医 等

Osseo integration study club of Japan 正会員、Academy of Osseointegration active member、International Dental Implant Association Diplomate、国際インプラント学会 会員 専門医、日本口腔インプラント学会 会員 専修医、DENTSPLY IMPLANTS ASTRA TECH IMPLANT SYSTEM 講師、日本顎咬合学会 会員 認定医、日本口腔外科学会 会員

『 低侵襲治療、Immediate provisionalization の優位性 ～臨床的工夫を含めて～ 』

インプラント治療が普及するにつれ「NBM」や「VBM」といった言葉に代表される様に、様々な要素を考慮した「EBM」をバックボーンとする包括的な治療が求められるようになってきた。

特に審美領域においては、複雑化した解剖学的要素に付随して治療難易度は高い。そして、従来の目的である機能回復に加え、長期的安定性、低侵襲、治療期間の短縮、審美性の回復、などの患者の要望を考慮すると、治療自体の複雑化と難易度の高騰により、オーバートリートメントに陥り易い現状も否めない。

我々臨床医の責務は、過去のマテリアルを含めた生物学的科学や治療方法の根拠を学び、それぞれの症例に適した手法を熟考、取捨選択することによって、最適な治療方法を決定し、最良の結果へと導くことではないかと考えている。

今回、審美領域における自身が施行している Immediate provisionalization における診査診断から、最終修復に至る一連の流れを提示させていただき、手技的側面と患者への侵襲の両面から見た低侵襲治療、治療期間、審美性の回復の観点から優位である点と、より良い治療結果を導くための臨床的工夫を交えて発表させていただきたい。

坂本 貞樹 先生 (神奈川県 川崎市 さだきデンタルクリニック)

- 略歴 2004年 日本大学松戸市学部卒業
イワタオセッコインテグレーション研究所及び東小金井歯科で研修
2006年 新橋高島歯科で勤務
2009年 代官山アドレス歯科勤務及び大河デンタルクリニック分院長に就任
2013年 さだきデンタルクリニック開院

『インプラントを用いて咬合再構成した症例』

インプラント補綴は無歯顎患者、部分欠損患者に標準的な治療オプションとなっています。それを成功させるためには術前評価と補綴治療計画が重要になります。今回のケースは失ったところを失っただけ回復するという義歯の理論を下に治療を進めていった症例を示したいと思います。また、術後3年半程経過していますのでその再評価もすこしできたらと思います。

吉田 茂治 先生 (埼玉県 さいたま市 パークサイドデンタルオフィス)

- 略歴 1999年 日本歯科大学卒業
1999年 東京医科歯科大学顎顔面外科勤務
2001年 東京 SJCD レギュラーコース修了
2001年 東京医科歯科大学顎関節治療部勤務
2002年 さいたま市大宮区 パークサイドデンタルオフィス開設
2012年 原宿マスターコース修了

『安定した下顎位獲得に苦慮した咬合再構成の症例』

患者は53歳女性。主訴は左下に装着されたブリッジおよび上顎前歯部クラウンのかたつきと咬合痛の改善。咀嚼時の下顎の偏位の改善。左側頭部の偏頭痛の改善であった。
診査の結果、歯周炎をはじめ、既存修復物全てが不適合かつ二次齲蝕に罹患。保存不可能な歯が多数存在した。ICPと顎頭安定位の不一致、咬合高径の低下を認め、問診からパラファンクシオンの存在が示され、咬合崩壊をもたらした一因であると疑われた。全顎的な咬合再構成が必要であると診断し、安定したバーチカルストップの確立のためインプラントによる臼歯部咬合回復を計画した。しかし実際の治療は、待時期間中の義歯の使用、広範な骨造成、矯正治療、いずれも受け入れてもらえないという制約の中で様々な工夫を求められるものとなった。
今回のケースを通じて学んだことを含めてご報告させていただきます。